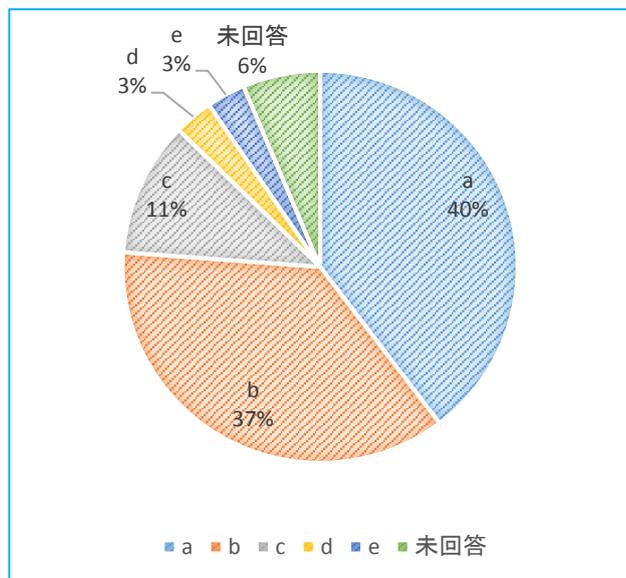


第13回 大学教育問題全学講演会
「能動的学修と教育の質保証のあり方」(2018.4.12)
アンケート集計結果

1. 清水一彦先生の講演はいかがでしたか。



a.大変良かった
 b.良かった
 c.ふつう
 d.やや良くなかった
 e.良くなかった

a	b	c	d	e	未回答	計
25	23	7	2	2	4	63

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ とても興味深い話でした。
- ◇ 内容が豊富でわかりやすかった。
- ◇ 教務担当経験のない者にも大変わかり易いお話でした。
- ◇ 多方面にわたり、含蓄のある話が聞けた。大変勉強になった。
- ◇ 裏話と具体的実践例を知ることができた。
- ◇ 具体例が適切であり、また資料も要点を押えたものであり、とても分かりやすい話だった。話の内容も有意義でユーモアにも富んでいた。
- ◇ わかりやすい資料をもとに説明が更にわかりやすく、なお実践されていることを伝えていただけた。お人柄も実に良い方にみえて、拝聴したい気持ちになれた。
※「実践とは、実行したことをわかりやすく、見やすい資料で心から伝えること」でしょうか。
- ◇ 今後の教育、講義の進め方に大変に参考になった。
- ◇ 歴史的な話だけでなく、どういう課題があるのか分かりやすくお話しいただきました。
- ◇ 実践された改革の事例がきけて、大変参考になりました。
- ◇ 実践的なところ。歴史的な視点がある。国際比較が面白い。
- ◇ 大学の目的・理念とその活動・成果を可視化する重要性
- ◇ 長いご経験からくる、長期スパンでの大学教育の変遷を拝聴でき、(単眼的な内容ではなかった)ので幅広い視野で大学改革の必要性を感じ取ることができました。具体的な改革経験をお聞きできたのが大変勉強になりました。
- ◇ 単位とシラバス、FDの関係がよく分かった。長年、疑問であったことが氷解した。
卒論の評価、日本独自の良い所の指摘が、興味深かった。
- ◇ 実績と経験に基づいた内容で、大変興味深かった。筑波大学の事例(教員の責任性の項目で、平均点20点以下の教員の担当者を変更した)等も交えて、説得力があった。山梨県立大学の新授業評価を受け、本学のをどうしていくか。これを本学の改革につなげられるかが問題。
- ◇ 私の所属する地域政策学部では、学生地域貢献事業という学生による能動的な活動があります。自分たちでテーマ、内容を決めて、一年間学生たちで実践します。学生は授業、部活・サークル、バイトなどがあるなかで、さらに地域貢献事業にも多くの学生が参加しています。昨年は23グループでした。先生の講演のなかで、「主体的な学び」の単位化をしても良いのではと強く感じました。FDの重要性、改革していくことの大切さを勉強できました。

- ◇ 実に合理的に基づく語りで、歴史的背景もよくわかりよかった。説かれたところを愛大で実現するにはどうしたらよいか、主催者から「アクティヴ」に還元してほしいところ。
「4単位は体育のためにつくった！」
「卒業研究3-6単位にする」（我等に応じて）
ただし“力関係”がよく見えないという問題も。
- ◇ 業務上の都合により、途中からの参加になり申し訳ありませんでした。
取組内容はもちろんのこと、学長としての組織マネジメントの手法も大変参考になりました。
- ◇ 非常に聞き応えのある講演だった。特に日本の高等教育の問題状況に関する切り口は、いろいろな発見があった。
学士力の可視化のための取組はすばらしいがリーダーシップが大いに必要となる事項と思った。
- ◇ 具体的でよくわかった。とくに学修成果の可視化の実践事例はとても勉強になった。これまでの日本での大学教育を評価している部分もあること。→自分の教育に自信をもつことができた。
- ◇ 教育の質的保証の内容が非常によく理解できたので。
- ◇ 教育の質を保証するためのFDの重要性をあらためて認識できた。
- ◇ 日本の教育の本質が指摘された。①官僚養成システム②雑食性がある。GPA制度の具体化がよかった。
- ◇ 日本の教育システムから現場の実践までお話しくださいました。特に授業評価についてお話を伺って、わたしたちのやり方についても考えさせられたものが多くありました。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ なかなか聞く機会がないテーマで興味深かった。
- ◇ これまでの知識を体系的に整理することができた。
時間が限られているので、ポイントをしばったお話をうかがいたかった。
- ◇ 話はおもしろく、わかりやすい。大変参考になった。資料は大きくカラフルで見やすかった。ただ、時間配分をもう少し考えてほしいかった。（後半あわただしい）やや盛りだくさんすぎ？時間オーバーはNG。
- ◇ 大変実践的な話であったからです。
- ◇ とても具体的な内容であった。
- ◇ 特に後半の取り組みの具体例
- ◇ 他大学、特に最近改革を実施された大学の取組みについて詳細に話を聞くことができてよかった。
- ◇ 米国と比較してある点が良かった。
- ◇ 日本の大学とアメリカの大学を比較して、日本の大学の問題点を指摘しているのが興味深かった。
- ◇ 日本の授業数がアメリカと比較して多すぎるため、学生、教員双方に悪い影響が生じてしまっているということがわかった。この問題を解決する方法が知りたい。
- ◇ 大学は元来ルーズな組織だということを指摘されたことには共感を覚えた。また、日本の大学の強みはゼミや卒業論文にあり、米国の大学でもこれにならおうという動きに言及されたことは重要な指摘である。ここにこそ日本型の能動的学修を発展させる基礎がありそうである。
- ◇ カリキュラム・ポリシーを規準にして評価アンケートを取るとするのは新しい動向として興味を持った。しかし、全教職員向けのテーマとしてはどうだったのだろうかと感じた。他大学事例として聞けば良かったということだろうか…
- ◇ 少しの単位不足の場合、卒論でゲタをはかして卒業させるというお話はおもしろかったです。
- ◇ 話がききとりやすかった。大学の授業で能動的学修への転換をどうするのか説明がよかった。
- ◇ 教育のシステム変革の方向性について同感・確認することができた。
卒業論文（卒業研究）が最大の能動的学修だという点については、自覚していなかったが、この講演で知ることができてよかった。今後の指導に生かしたい。
「下位2割」の貢献の話はおもしろかった。
- ◇ 教育の質保証についての基本的考え方が理解できた。また、その構築に向けての実践例は参考になった。
- ◇ 現在の教育の方向性についてある程度理解した。